

母の 653 ひろば

doshinsha / haha no hiroba

ぼろり家族⑩／落合由利子 2

おだんご先生の親子でつくろう！季節の和菓子④／芝崎本実 3

赤ちゃんに語りかけるとのこと

——ブックスタートを知っていますか？／小林浩子 4

とよかずひご先生を北京にお迎えして／林静 6

新刊紹介／瀬戸口あゆみ 7

だいすき！かみしばい／橋村孝子 7

イラスト／出久根育



新版「アリとキリギリス」の紙芝居を作ったワケ 鎌田 實

今度、ぼくにとって初めての紙芝居『かまた先生の アリとキリギリス』を童心社から出版することになりました。

イソップ版の「アリとキリギリス」は、雪の中で飢えているキリギリスにアリは食べ物を分け与えず、キリギリスは餓死していく話でした。確かにここには大切な教訓があります。しかし、残酷な話だなあと思いました。見殺しではなく、子どもたちが希望を持てるような寓話にできないだろうかと考えました。

1934年、ウォルト・ディズニーはこのお話をアニメ映画にし、食べ物の御礼にキリギリスがアリに音楽を聞かせるというエンディングにしました。でももっと相手を「理解しあう」ことに踏み込んでみたいと思いました。

アリが将来の生活に備えて努力しているのはとても大事なことです。ぼくの物語の中では、キリギリスにも実は夢や希望があって、みんなの见えないところで遠くへ飛ぶ練習をしています。ただの遊び人ではなかったのです。子どもたちに、見える努力と见えない努力があることを理解してもらいたいと思いました。

冬が訪れ、食べ物や家がないキリギリスの前に登場する1匹のアリは、他者の苦しみを理解し、キリギリスに来年の春まで自分の家にいていいよ、というあたたかな友情を示します。他の多くの働きアリたちは、実はキリギリスに対して嫉妬があったのですが、キリギリスと友達になったアリは、働いているときにヴァイオリンを弾いてくれるキリギリスをリスペクトしていたのです。しかしキリギリスは友情に甘えず、自分の夢を達成するために自立していこうと、南の国の人たちに自分のヴァイオリンを聞いてもらうために飛び立ちます。お互いが理解しあうところから友情が芽生えることを理解してもらおうとしました。

真面目に働くことと同時に、余暇を楽しむことの大切さ、相手の身になることの大切さ、弱い人に手を差し伸べることの大切さ、夢や希望を持つことの大切さを伝えたいと思って、「かまた版」の寓話を作りました。スズキコージの絵がすばらしいです。子どもの心をグイグイと引っ張り、大人も圧倒するような紙芝居になると思います。

紙芝居は共感の心を育てる、と言います。厳しい時代ほど心の分断化が起きてしまいましたが、そういう今だからこそ、親子で紙芝居を楽しみ「理解しあう心」を育てていただけたらと思っています。

(かまた みのる／医師・作家)

おちあい ゆりこ／写真と文章を手がけた著書に『働くこと育てること』(草土文化)『絹ばあちゃんと90年の旅 幻の旧満州に生きて』(講談社)、共著に『若者から若者への手紙1945→2015』(ころから)他がある。写真展多数。人に寄り添う取材を続ける。



2018.8.27
飯能河原(埼玉)にて

ぽろり家族 10

写真家の落合由利子さんが、さまざまな家族の「ぽろり」と垣間見える素顔に出会っていきます。

写真・文
落合由利子

四歳のころ

亮しやうさんと祐美ゆみさんが付き合い始めたのは二十代の頃。中学と幼稚園が同じだったと知ったけれど、お互い話したこともないと思っていた。ところが、幼稚園の写真を搜してみたら、二人で手をつないで踊っていた。「これって運命!? 鳥肌が立ちました」と祐美さん。亮さんの仕事は製造業の現場監督。毎日納品時間に追われている。正直仕事は辛い。休憩時間にスマホの共有機能で、祐美さんが撮ったその日の子どもたちの写真を見て、ほっとする。

四年前の夜勤明けの朝に翔麻しょうまくんが生まれた。バイクを病院に走らせながらうれしさがこみ上げてきた。

「久しぶりにいろいろ思い出してよかった」別れ際に亮さんがつぶやいた。

おだんご先生の

親子でつくろう！

季節の和菓子④

栗蒸しようかん

芝崎本実

●材料(15×15cm角型)

こしあん 450g
上白糖 20g
薄力粉 35g
片栗粉 4g
水 100～150ml
塩 ひとつまみ
栗甘露煮 12粒
(1粒15g程度の大きな栗)



木枯らしが吹き、ぽとりと落ちたいがの中からのぞく栗。秋の深まりを感じつつ、素朴で優しい甘さの「栗蒸しようかん」をどうぞ。



イラスト／二本ちかこ

しばさき もとみ／管理栄養士、帝京平成大学教員。
「おだんご先生」として、和菓子の魅力を発信。「おだんご先生のおいしい！ 手づくり和菓子」も発売中。

●作り方

マークの手順は、ぜひ親子でいっしょに！

*こしあんを手作りする場合は、第3回(651号掲載)のレシピを参照してください。

①ボールにこしあんと上白糖、合わせてふるった薄力粉と片栗粉を入れ、手でもみ混ぜる。

こねでしっかり混ぜると、もちもちした食感になるよ。

②①に水を少しずつ加えながらゴムべらで混ぜ、塩を入れて混ぜる。

生地をすくい上げると流れ落ちる程度のゆるさに、水の量を加減してね。

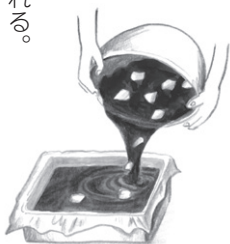
③栗の甘露煮を半分に切り、半量を②の生地に入れて、軽く混ぜる。

④クッキングシート

を敷いた

角型に③

を流し入れる。



⑤残りの栗を表面にのせ、ゴムべらで平らにならす。

⑥強火で約1時間蒸す。

蒸し器にこまめに水を足してね。

⑦蒸し上がったようかんの表面をゴムべらなどで再度平らにする。



やけどに注意！

⑧2時間ほど置いてからクッキングシートごと型から取り出し、3×4cm角に切り分ける。

★次回は、ゆず餅です。

●豆知識

中国から伝わった羊などを使った羹(汁物)が、精進料理の中で肉が豆や小麦粉に置き換えられ、やがて甘みのある固形の和菓子「ようかん」へと変化しました。粉を加熱して固める蒸しようかん、寒天で固める練りようかんがあり、後者のほうが遅く、江戸時代に生まれました。

「子育てとかけて〇〇と解く。その心は？」

さてみなさんは何とお答えになりますか？「ご存知の方もいらっしゃると思いますが座布団を抱えてちょいとお待ちしましょう。いったん紙面から顔を上げてお考えください。」

はい、答えは「盆栽」。その心は「松（待つ）」と「菊（聞く）」が大切……。

子育てに限らず、人と人のお付き合いの中でも大切なことですよ。この「聞く」と絵本との関係、とくに赤ちゃんとお話し「声の言葉」のお話を一席、お付き合いください。

* * *



北海道恵庭市

赤ちゃんに語りかけると いうこと ブックスタートを 知っていますか？



群馬県大泉町

こばやし ひろこ／NPOブックスタート事務局長

小林浩子



福岡県飯塚市

「赤ちゃんに絵本が分かるのですか？」
最近では少なくなりましたが、ブックスタート事業の開始当初、しばしば寄せられた質問です。

分かっているのかいないのか。赤ちゃんに聞いてみないことには即答できませんが、実際に赤ちゃんの前で絵本を広げ語りかけるように読み始めてみると、ほら、赤ちゃんの様子を見てください！

ブックスタートは、〇歳児健診などの機会に絵本を開く体験と共に赤ちゃんに絵本をプレゼントする自治体の事業です。自治体に誕生した「すべての赤ちゃん」を対象とすること、そして絵本を渡すだけでなく「体験と絵本がセット」であることが大切です。

会場で赤ちゃんに絵本を読むのは主に図書館員さんや住民ボランティアの方々。こんな小さな赤ちゃんに絵本は早い、そう思っている親御さんには「体験」を通じて赤ちゃんの様子を見てもらえ、絵本を読んでもらうことの心地よさを感じてもらうからです。

さらに「絵本」を持ち帰っていただくことで、自宅でもすぐ赤ちゃんと一緒に楽しむことができます。

ブックスタートは「一九九二年にイギリスで始まりました。発案者のウェンディ・クーリングさんは、赤ちゃんにとって絵



イラスト／出久根育

本は読む（read books）^{リードブックス} もではなく、読み手と共に楽しむ（share books）^{シェアブックス} ものと考え、活動を立ち上げたのです。

日本でもこの考え方が、二〇〇〇年の「子ども読書年」の際に紹介されて多くの人の共感を呼びます。そして自治体の事業として導入され、広がっていきまし

た。私たちNPO（特定非営利活動法人）は事業を実施する自治体を全国規模でサポートする組織です。初年度は三十八自治体で始まった活動は次第に全国へと広がり、現在、千三十二自治体（二〇一八年九月末／NPOブックスタート調べ）が実施しています。みなさんがお住まいの地域ではいかがでしょうか。

赤ちゃんは語りかけてもらうことが大好き！ 小さな体の成長にミルクが必要

なように、心の成長には「声の言葉」が必要です。人類の長い歴史の中で、そもそも言葉は読み・書く以前に、語り・聞くものでした。抱っここのぬくもりの中で、絵本の文や絵から紡ぎだされる言葉を読み手が語りかけることで、赤ちゃんはさまざまなことを五感で感じ取っているようです。

実際にブックスタート会場で赤ちゃんたちを見ていると、絵本が分かるかどうかは問題ではなく、絵本を介してお互いの気持ちを感じ合うことが大切なんだなと実感します。絵本は全部読まなくていい、赤ちゃんがなめたり噛んだりしてもいい、絵本の時間を家族で楽しむきっかけになれば……、そういう思いをこめて各地の活動は続けられています。

もつひとつ忘れてはならないのが、お母さん・お父さんの幸せです。

日本のブックスタートは、母子保健や図書館という行政のタテ割りを超えた協働によって運営され、さらに住民ボランティアの方々の参加もその活動を支えています。地域全体として赤ちゃんの成長を願い、お母さん・お父さんの子育てを心から応援しているのです。

ブックスタートを受けたお母さんたち

栃木県野木町



からは、「月齢が進むにつれて、絵本の同じところで笑ったり自分でページをめくったりと、できることが増えて楽しいです」「ブックスタートを受けたとき、子どもが声を上げて笑ったのを見てすごくあたたかい気持ちになりました」「絵本を読んであげることで、自分が一番リラックスした時間が持てることに気がつきました」「パパが面白がって読んであげるようになりました」など多くの感想が寄せられています。

ボランティアの方から圧倒的に多い声は「私たちの方が元気をもらっています」というもの。赤ちゃんの笑顔はそれだけでまわりを幸せにするのですね。

「すべて」の赤ちゃんの幸せを目指して私たちがいま取り組んでいることのひとつに、点訳絵本交換対応と多言語資料の提供があります。視覚障がいのある保護者の方や、日本で暮らす外国語を母語とするご家族にも、赤ちゃんに絵本を楽しんでもらうためのサポートです。

取り組みの詳細は当法人のホームページ（<http://www.bookstart.or.jp/>）でも紹介していますのでご覧ください。各地のブックスタート会場の様子も掲載しています。

* * *

冒頭の盆栽の話に戻しましょう。盆栽というと人工的に姿かたちを整えていくように思われがち。でも一本一本もって生まれた資質が違ふ樹木たちが自分の力で生長しようとする生命力を生かしながら、最低限のチョキンチョキンで手入れする。それが盆栽の真髄だそうですね。

いや、これがなかなか難しい。自分の子育てを振り返っても後悔ばかりですが、それでも手をかけた（かけなかった）なりに子どもは育っていくのかもしれない。生命力の根っこが健やかに伸びるようにに親ができることは「待つ」と「聞く」を心掛けながら、地面を耕し水をやることくらいでしょうか。

二〇一八年夏、中国の出版社、蒲公英童書館社の招きで、とよたかずひこ先生が北京にいらつしやいました。蒲公英童書館は二〇一年にとよた先生の「ももんちゃん あそぼう」シリーズを中国で翻訳出版し、販売部数はシリーズ累計で約七十万部にのぼっています。中国の児童書出版社や絵本作家たちのあいだでは、とくに〇〜三歳向けの絵本の創作について関心が高まっており、みなとても熱心に勉強しています。

とよた先生は、七月十五日、十六日に、それぞれ「二〇一八年中国チルドレンブック・エキスポ」で編集者やイラストレーターを前に、蒲公英童書館の社屋で記者や編集者を聴衆に、お話をされました。私は通訳として同行しました。

先生は、「作者ひとりでは絵本は作れません。編集者が作者にとって最初の読者なのです。耳が痛いぐらいのことをどんどん言ってくれないと、作者が成長しません」と、編集者の役割の大切さを強調されました。話を聞いた編集の方たちは、編集者を尊重する先生のお気持ちに心が温まるとともに、先生の謙虚な姿勢に感激し、もっと頑張ろうと成長の誓いを新たにしていました。

先生は、赤ちゃん絵本について「赤ちゃんにとって、信頼できる大人から読んでもらえる安心感がいちばん大切なので、それに応えられるようなシンプルで楽しいお話をつくっています」とおっしゃいました。また、絵本を見せながら、「二ページから二十四ページまで、ひとつの世界が繋がっています。表紙と袖



とよたかずひこ先生を北京にお迎えして | 林 静 (翻訳者)

は話のイントロになるように、裏表紙には余韻が響くようにと考えてつくっています」と説明され、先生の緻密な仕事ぶりにみな驚いていました。

会場からは多くの質問が寄せられました。「ももんちゃんの性別は?」「なぜ桃の形の赤ちゃんを主人公にしたの?」「表紙のももんちゃんは白で、本文ではピンク色なのはなぜ?」「ももんちゃんの友だちはなぜ、サボテンなど不思議なキャラクターなの?」などなど、先生はそのひとつずつに熱心に答えてくださり、会場のみならず温かみのある人柄にますます魅了されました。

十七日は、今日美術館で子どもたちと一緒にワークショップを行いました。大きな紙の一部に先生がももんちゃんのイラストを描いたものを配り、子どもたちに自由に描き加えてもらいました。なかに、失敗を恐れて描き出せずにいるいちばん大きな十歳の子がいました。とよた先生が「なんでもいいから描いてごらん」と優しく話しかけると、横向きで駆けているももんちゃんの絵の横に、走るチーターの絵を描きはじめました。上手に体を描いたのですが、今度は顔を描けず困っているのに先生が気が



づいて顔を描き足し、二人の素敵な合作ができあがりました。子どもたちは最後に、「よくがんばりました」と書かれたももんちゃんのごほうびシールをもらい、大喜びでした。

ちなみに、先生が北京にいらした時期は、ちょうど地元九保桃の旬の時期で、私はおみやげに持参しました。桃のようなピンク色の甘い思い出をみな的心里に残して、先生は帰国されたのでした。

BOOK

「うれしさと笑顔が
つながる
『ありがとう』の
しかけ絵本

瀬戸口あゆみ



『ありがとう』
新井洋行／さく
本体価格 1200円＋税

お待ちかね！「あいさつしかけえほん」シリーズ第3弾。テーマは「ありがとう」です。電車ごっこをして遊んでいるうさちゃんとねこちゃんに、くまさんが言いました。「うさちゃん ねこちゃん いーれーて」「いいよ」うさちゃんとねこちゃんが答えます。

さあ、お次は読者の出番。上下ふたつに分かれたページの下をめくって、くまさんを電車に乗せてあげましょう。それから上をめくれば……くまさんがとびぎりの笑顔で「ありがとう」。うさちゃんとねこちゃんもうれしそうです。そんなうさちゃんとねこちゃんも、お友達に何かをしてもらったときには「ありがとう」と素直に言うことができます。

このシリーズの特長は、何と言ってもページが2分割になっているしかけ絵本であること。しかけを通して、読者がおはなしの展開に参加することができるのです。今作では「あげる」「貸す」等の動作をお手伝いすることができます。一見シンプルなしかけですが、まさにこのシンプルさに新井洋行さんならではの「子どもを夢中にさせる」エッセンスが詰まっているのです。めくる行為の楽しさに加えて、その度に現れる笑顔。読んでいてうれしい気持ちになるのですから、「もう1回読んで」とリクエストされるのも納得です。文は短い会話形式。おしゃべりが上手になってきたら、親子で読み合うのも楽しいですよ。 (せとぐち あゆみ／絵本ナビ)

日本では、「人柱^{ひとばしら}」や「人身御供^{ひとみごくう}」といった、うそのような本当の話が各地に伝わっています。天災や水難から村や人間を守る「お祓い^{はらい}」のため、誰かをいけにえとして、生き埋めにしたり、捧げたりするという話です。

ある家の屋根に、1本の「白羽の矢」が突きささった場面からこの『しっぺいたろう』は始まります。画家の田島征三さん独特の深緑をした屋根にささった白い矢に、観客の目は集中します。この村では、祭りのたびに「白羽の矢」が立てられた家の娘を神にささげなければならないのです。

通りがかった坊さんはその話を聞き、神の正体がヒヒという猿の化け物だと見抜きます。そして、化け物が一番怖がっているという「しっぺいたろう」を、何日もかけて探し出し、祭りの晩に両者を遭遇させます。「しっぺいたろう」は実は犬だったのです。血みどろの闘いのあと、勇ましく立っていたのは、しっぺいたろう。迫力ある絵に圧倒されます。助けられた村人たちは、しっぺいたろうのお堂を建てて、今でも大切に拝んでいるそう。

脚本の津田真一氏の解説によると、人身御供の風習に苦しむ村を勇敢な犬が救うお話はほかに、「早太郎」や「猿神退治」などの名で日本各地に残されているとのこと。ここ宮川（伊勢市）でも、かつて川の災害から村を守るためお坊さんが人柱となったそうで、今でも堤防に碑が建っています。

(はしむら たかこ／紙芝居ビッポの会事務局)



『しっぺいたろう』
津田真一／脚本
田島征三／絵
本体価格 1900円＋税

「白羽の矢」から娘を救うのは？ 橋村孝子

だいすき！ かみしばい

10月の新刊図書！

たのしい いちにち

いすちゃんです。

とよたかずひこ／さく・え

本体価格 800円＋税



いすちゃんが脚で、かたかたこんこん、音をたてていると、窓からぴょーんとねこが入ってきて、いすちゃんの上へ。次にきたのは……。

とことこえほん

まんまちゃんのボールがポン！

中川ひろたか／作

長野ヒデ子／絵

本体価格 900円＋税



まんまちゃんがボールあそびをしていたら、ボールがポーンととんでいって、ジャブーン！川におちちゃった。おいかけていくと……。

単行本絵本

ぱんだがころんで…

得田之久／作

たるいしまこ／絵

本体価格 1300円＋税



「かにがころんで てれわらい……にかっ！」ころんで さかさになっちゃった！ ユーモアたっぷり、楽しい、さかさ言葉の絵本！

ハートウッドホテル

ねずみのモナと秘密のドア

ケイリー・ジョージ／作

久保陽子／訳

高橋和枝／絵

本体価格 1300円＋税



親も家もなくしたひとりぼっちのねずみ、モナ。嵐のなか森をさまよいたどりついたのは、巨木の中に隠された、不思議なホテルでした。

怪談オウマガドキ学園

②9秋の闇夜の授業参観

常光徹／責任編集

村田桃香・かとうくみこ・山崎克己／絵

怪談オウマガドキ学園編集委員会／編

本体価格 680円＋税



今日は授業参観の日です。お父さん、お母さんも学園に授業のようすをのぞきにきます。「秋」をテーマに、ふしぎな話を13話収録。

怪談オウマガドキ学園

③0異界ツアーで体験学習

常光徹／責任編集

村田桃香・かとうくみこ・山崎克己／絵

怪談オウマガドキ学園編集委員会／編

本体価格 680円＋税



「もうすぐ体験学習があります」先生がそういうと、教室がどよめきました。「異界」をテーマに、こわ〜い話を13話収録。

2018年10月15日発行（毎月刊）

母のひろば 第653号
定価50円（年600円／送料とも）

発行所：童心の会
〒112-0011 東京都文京区千石4-6-6
株式会社童心社内
電話：03（5976）4187
03（5976）4402（編集）
編集発行人：大熊悟
童心社のホームページ：
<https://www.doshinsha.co.jp/>
デザイン：谷口広樹

定期購読のご案内

おハガキにてお申し込みください。下記QRコードからもお申し込みいただけます。見本誌（無料）と振込用紙をお送りいたします。

見本誌に同封されている振込用紙で購読料をお支払いいただけますと、手続き完了となります。購読料金は1年分600円（送料とも）。



あとがき

●「わらべうたでひろがるあかちゃん絵本」全3巻を出したので、こがようこ先生を講師にイベントを行いました。赤ちゃんとお母さんなど数組の方と童歌絵本を楽しみます。すると言葉のリズムと共に赤ちゃんが「きゃっきゃ」と笑うのです。それだけでお母さんも、緑もゆかりもない私も幸せな気持ちになります。赤ちゃん絵本とは素敵なものですね。◎

●娘の七五三が近づき、手に入れた古い初着に、母が肩上げ腰上げを施し、袖を丸く縫いとじます。「八掛にはよい絹を使うけど、胸裏の紅絹は固い」70年近く前、和裁する祖母の側で聞いた独り言が、紅絹の軋みに針を折る母の記憶に突然蘇りました。仕事のPCを開いていた私は、せめても袖元のほつれに針を刺し、不恰好にとじあわせたのでした。▲